

今月の題字

学校休校の影響を受け、今月の題字は、筆の里工房学芸員の井田さんに書いていただきました。



筆の里工房学芸員 井田 明宏 さん



尾崎放哉の句「漁船散らばり昼(晝)の海動かず」

筆の里工房 学芸員

井田 明宏さん

第71回毎日書道展出品作。
瀬戸内海の穏やかな景色を表現した自由律俳句を題材に、その詩情を書で表現しようと試みました。墨の色、文字の配置に意を配り、静かなながらも動きのある、ゆったりとした作品を目指しました。羊毛筆による線の変化と偶然できた墨のにじみが、作品の印象を柔らかくしてくれました。

熊野の自然 (369)

ニガナ

(キク科)



茎や葉を切ると苦みの出る白い乳液が出ます。若い葉は食べられます。食べられる植物には「菜」の字を付けることが多く、「苦菜」の名前が付いています。日本全土の日当たりの良い土手や草地などに普通に見られる多年草で高さ20〜50cm。よく群生しています。花期は5〜7月。茎は上方で多くの細い枝を分け、直径1.5cmほどの黄色の頭花を1個ずつ付けます。キク科の植物は、1個の花に見えるものが小花の集合体で頭花と呼ばれます。ニガナの小花は舌状の花弁を持つ舌状花ばかりで、5〜7個

と少ないのが特徴です。筒状の筒状花はありません。舌状の花弁は1枚に見えますが、5枚の花弁が合生した合弁花です。花弁の先端が直線ではなく5個の歯があるのが、5枚が合生した事を示しています。根生葉はへら形で裂片や鋸歯があり、長い柄があります。茎葉は柄がなく、基部は茎を抱いています。

ハイニガナはニガナとよく似ていますが、地面近くを横に這う走出枝があり、茎葉の基部は細く、ほとんど茎を抱きません。熊野では、平谷の串掛林道で5月に確認しました。ハナニガナは黄色の舌状花が8〜10個と多く、頭花の直径も約2cmと大きく華やかです。葉も幅広く大きくて、高さは40〜70cmです。

【写真・文】

緑花文化士 富沢由美子

筆の駅ミニギャラリー

●其阿弥赫土と仲間たち
〜日本画の幽玄世界〜

時 6月4日(木)〜6月16日(火)
広島県呉市出身の日本画家、其阿弥赫土(1925〜2019)と、その弟子や孫弟子の作品を展示します。数々の賞を受賞した其阿弥赫土の作品には、日本の伝統的な神秘性や幽玄性などが具象化されています。東広島市黒瀬町にある其阿弥赫土美術館の所蔵作品も展示予定です。ぜひご来場ください。



「石榴」其阿弥赫土作

熊野町観光案内所「筆の駅」

熊野町出来庭10・6・24

問 855・1123 (いいふみ)

開 10時〜16時

(各展示の最終日は15時閉場)

休 水曜日・第3日曜日

6月2日(火)まで臨時休館

※無料

※ギャラリーのご利用については、お問い合わせください。



082-820-5640 (放送終了後24時間自動消法)

